

平成 30 年度全国学力・学習状況調査の結果について

平成 30 年 9 月 14 日
枚方市立山田小学校

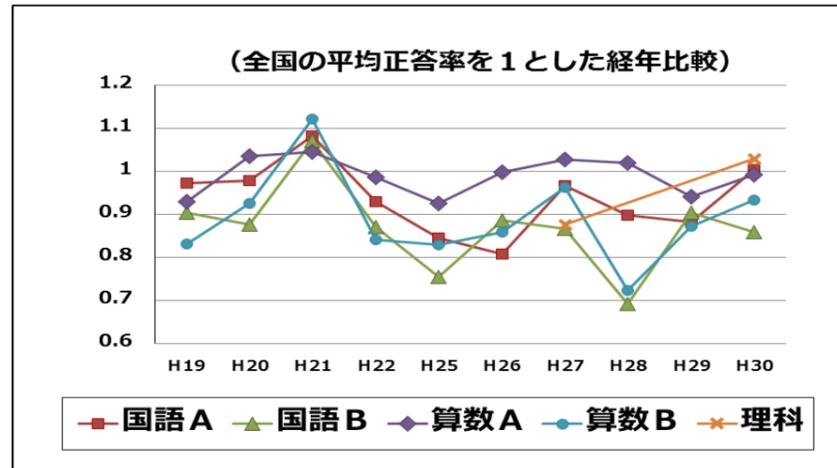
文部科学省が今年 4 月に実施した、平成 30 年度全国学力・学習状況調査の結果について、全国を基準とした経年推移等によって、本校の学力や学習の状況を保護者の皆様にお知らせします。結果によると、児童（生徒）の生活習慣と学力には相関関係があることから、引き続き、保護者の皆様にもご協力をお願いいたします。

【全体概要】

学力調査の結果

※調査結果について
教科や出題範囲が限られていることから、
全国学力・学習状況調査により測定できるのは、学力の特定の一部です。

学力調査結果の中から、本校と全国の経年比較（対全国比）をお知らせします。



< 学力調査結果の概要 >

○国語 A について

→全国の平均正答率と同じでした。
後半の問題の無解答率がやや高かったのは、時間が不足したものと考えられます。

○国語 B について

→全国の平均正答率を下回りました。
「書くこと」の領域の「記述式」の問題に課題が見られました。

○算数 A について

→全国の平均正答率とほぼ同じでした。
「図形」の問題にやや課題がありました。

○算数 B について

→全国の平均正答率よりやや下回りました。
数量関係の領域の「記述式」の問題に課題が見られました。

○理科について

→全国の平均正答率を上回りました
すべての問題の無解答が 0 で成果が見られましたが、記述式の活用問題に課題がみられました。

※本調査は、平成 19 年度から実施されています。

※平成 23 年度は中止(東日本大震災)、平成 24 年度は一部の学校を対象にした抽出調査のため、掲載していません。

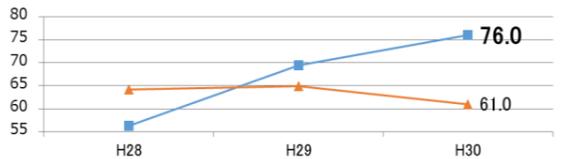
質問紙調査の結果

※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「あてはまらない」を示しています。
※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。
※無回答があるため、帯グラフの合計数値は 100 にならない場合があります。

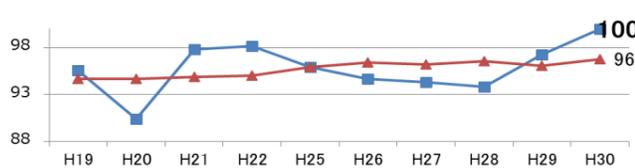
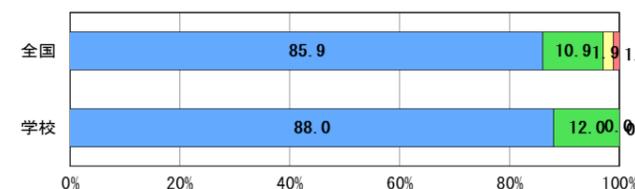
質問紙調査結果の中から、主な項目について、本校と全国の経年比較をお知らせします。

▲ 全国
■ 本校

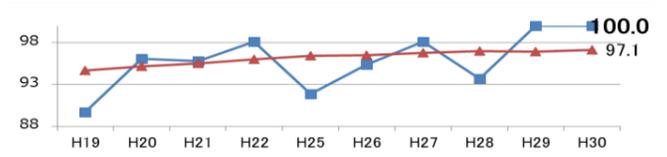
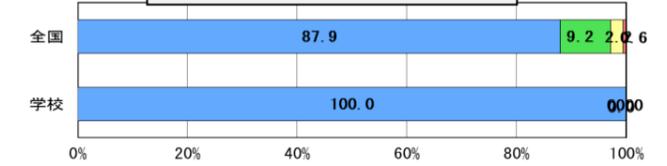
自分の考えが上手く伝わるように工夫して発表している



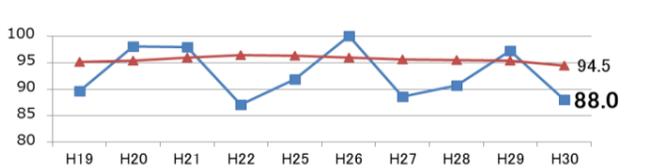
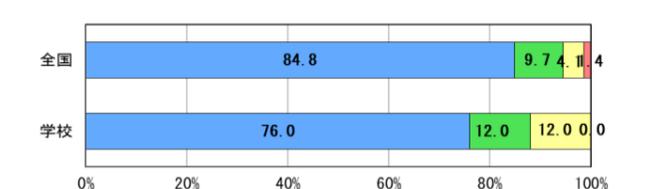
いじめはいけないことだと思う



家で宿題をしている



朝食を毎日食べている



< 質問紙調査結果の概要 >

- ・授業について
「自分の考えを説明する力」の育成をめざして授業改善を進めてきていますが、「自分の考えが上手く伝わるように工夫をしている」と回答している児童が増えてきている傾向が見られます。
- ・家庭学習について
「家で宿題をしている」と回答している児童が 100% で、宿題の定着が見られます。
- ・規範意識について
「いじめはいけないことだと思う」と肯定的に回答している児童が 100% で、「自分も大切に、友だちも大切に」という「山田小学校のやくそく」が児童にも浸透していると思われます。
- ・生活習慣について
「朝ごはんを毎日食べている」と回答した児童が減少傾向にあります。

まとめ

学力調査の結果では、国語 A、算数 A が全国平均正答率とほぼ同じ、理科については全国平均正答率を上回りました。基礎学力の向上をめざして指導を行っていますが、主として知識に関する A 問題については理解ができてきている傾向が見られ、成果が出ていると思われます。しかし国語 B、算数 B の主として活用に関する問題については全国平均を下回り、特に記述式の問題に対する回答に課題が見られました。質問紙調査については、授業では発表する時に工夫している児童が増えている傾向が見られ、家庭でも 100% の児童が宿題をしている。と回答できており、成果が見られました。いじめに対しても 100% の児童がいじめをいけないことと回答しており、規範意識も育っています。朝ごはんの喫食率に減少傾向がみられたので、今後も啓発が必要だと思われます。

※次ページ以降に、「各教科に関する調査」「質問紙調査」における詳細な結果について公表しております。

【詳細について】

教科に関する調査

<国語A> (主に知識に関する問題)

成果や課題があった設問

【成果】

6、慣用句の意味を理解し、使う

問題文等は省略。

	正答率	無解答率
本校	96	0
全国	90.4	1.4

(考察)

「心を打たれる」の意味は「感動する」「心を強く動かされる」などであるが、ほとんどの児童が意味を理解し、適切な使い方ができていました。

【課題】

5、書いた文章を読み直す

問題文等は省略。

	正答率	無解答率
本校	40	0
全国	35.5	3.9

(考察)

文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書くことができるかどうかをみる問題であるが、文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書くことに課題がみられました。

<国語B> (主に活用に関する問題)

成果や課題があった設問

【成果】

1-1、言葉の使い方を見直すために、話し合う

問題文等は省略。

【課題】

2-2 献立を推薦する文章を書く

問題文等は省略。

	正答率	無解答率
本校	80.0	0
全国	82.5	0.4

(考察)

互いの立場や意図を明確にしなが、計画的に話し合うことができるかどうかを見る問題であるが、比較的多くの児童が、木村さんがどのような意図で質問をしているのかを理解できていました。

	正答率	無解答率
本校	8.0	4.0
全国	13.5	2.7

(考察)

全国の平均正答率でも一番正答率が低い問題であった。目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書くことができるかを問う問題であったが、「紹介する文章」と「保健室の先生の話から分かったこと」の2つの資料から適切な内容を取り上げて関係付けて考えて書くことに課題がみられました。

<算数A> (主に知識に関する問題)

成果や課題があった設問

【成果】

4-1 単位量当たりの大きさ

問題文等は省略。

	正答率	無解答率
本校	96	0
全国	87.8	0.6

(考察)
異種の二つの量のうち、一方の量がそろっているときの混み具合の比べ方を理解しているかを問う問題であったが、ほとんどの児童が理解できていました。

【課題】

7-1 直径、円周、円周率の関係

問題文等は省略。

	正答率	無解答率
本校	32.0	4.0
全国	41.6	3.6

(考察)
円周率を求める式として正しいものを選ぶ問題であったが、円周率が円周の直径に対する割合であることを正しく理解することに課題がみられました。

<算数B> (主に活用に関する問題)

成果や課題があった設問

【成果】

1-1 図形の観察と論理的な考察・表現

問題文等は省略。

	正答率	無解答率
本校	80.0	0
全国	71.7	0.3

(考察)
合同な正三角形で敷き詰められた模様の中から見出すことができる図形として、正しいものを選ぶ問題であったが、比較的多くの児童が条件に合う図形を見出すことができていました。

【課題】

3-1 情報の関連付けと解釈・表現及び判断

問題文等は省略。

	正答率	無解答率
本校	20.0	16.0
全国	20.7	18.0

(考察)
日常生活の事象を、グラフの特徴を基に、複数の観点で考察したり表現したりすることができるかを問う問題であったが、メモの情報と棒グラフを組み合わせたグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを言葉や数を用いて記述できることに課題がみられました。

<理科>

成果や課題があった設問

【成果】

1-3 生命に関する問題

問題文等は省略。

	正答率	無解答率
本校	96.0	0
全国	79.4	3.8

(考察)
腕を曲げることのできる骨と骨のつなぎ目を表す言葉を書く問題であったが、ほとんどの児童が「関節」と解答することができていました。

【課題】

2-3 地球に関する問題

問題文等は省略。

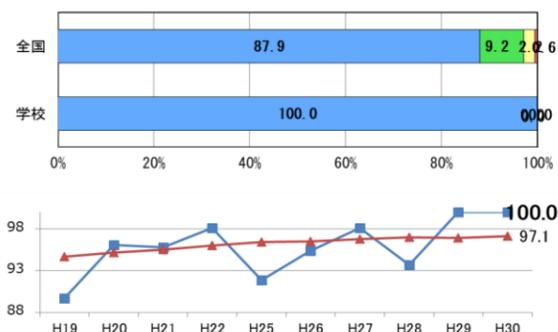
	正答率	無解答率
本校	20.0	0
全国	20.1	1.0

(考察)
一度に流す水の量と棒の様子との関係から、大雨が降って流れる水の量が増えたときの地面の削られ方を選び、選んだわけを書く記述式の問題であったが、一度に流す水の量を増やしたという原因についての的確に捉えて記述することができておらず、原因と結果の視点でとらえて分析し、考察したことを説明することに課題がみられました。

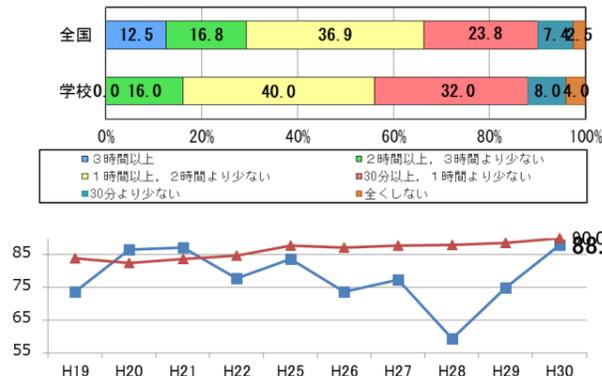
質問紙調査

【成果のあった項目】

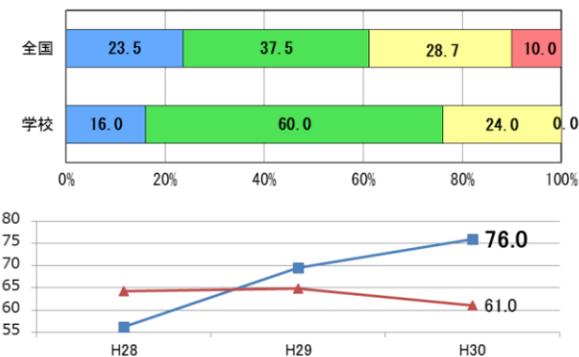
家で宿題をしている



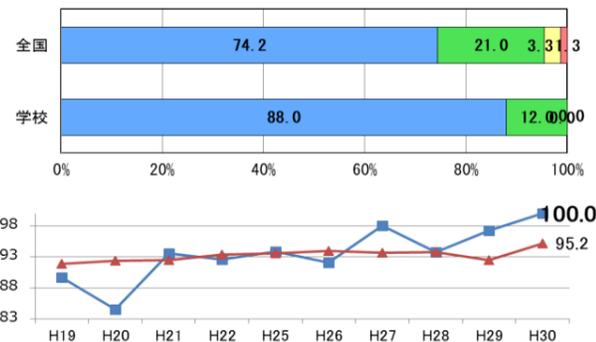
家で30分以上勉強している



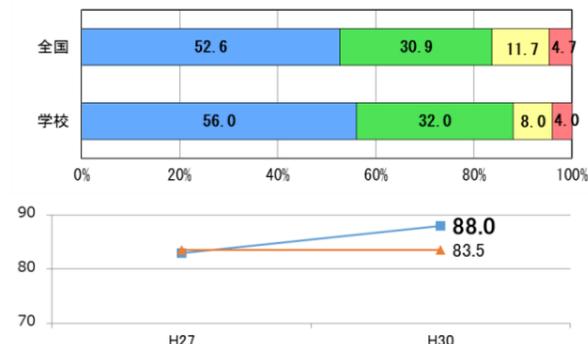
発表するときには工夫して発表している



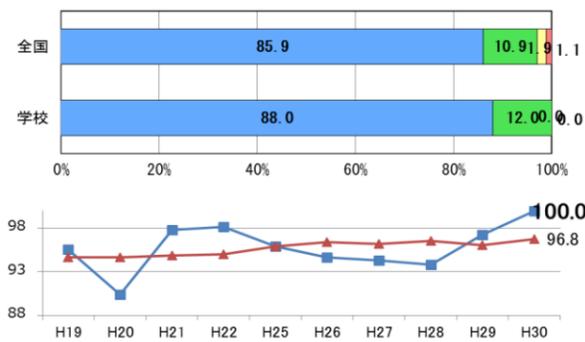
人の役に立つ人間になりたい



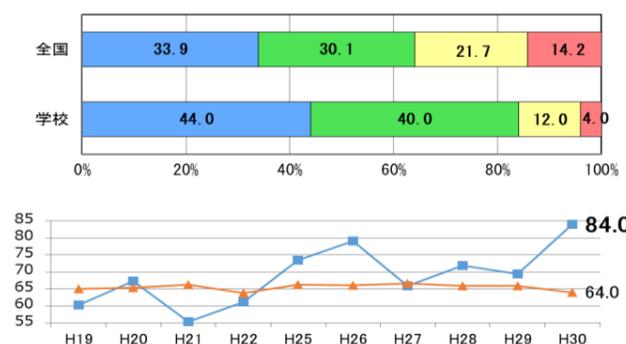
理科の勉強は好きだ



いじめはどんな理由があってもいけない

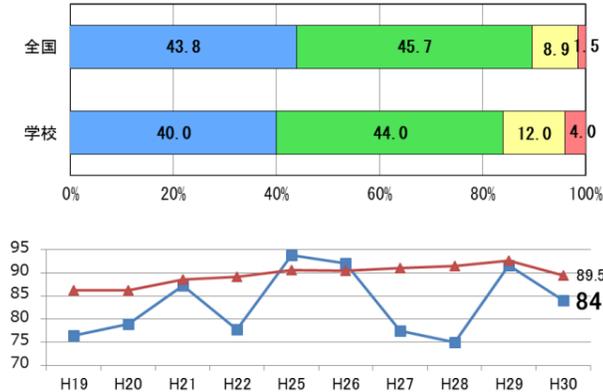


算数の勉強は好きだ

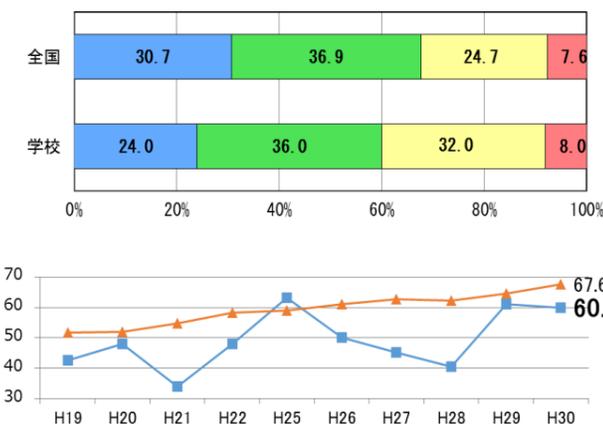


【課題のあった項目】

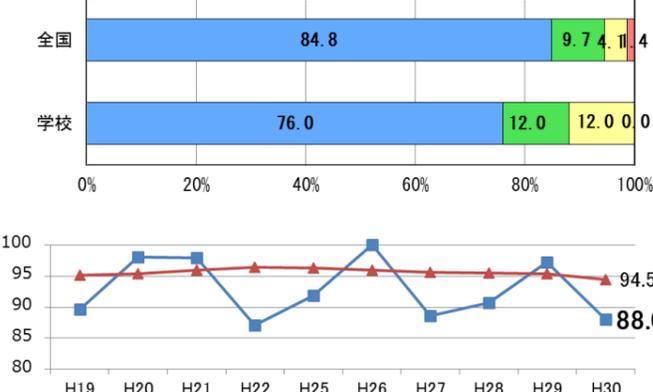
学校のきまりを守っている



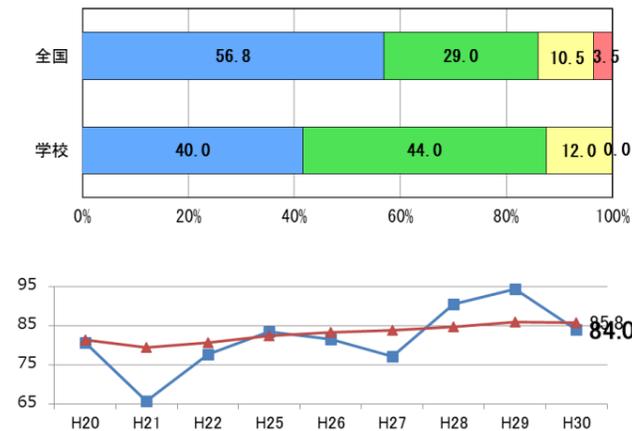
自分で計画を立てて勉強している



毎日朝食を食べている



算数の授業で解き方などがわかるようにノートに書いている



※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「あてはまらない」を示しています。
 ※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。
 ※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合もあります。

成果（考察）

「家で宿題をしている」と回答している児童の割合が100%で、「家で30分以上勉強している」と回答する児童の割合も増えており、家庭で学習するという習慣の定着が見られました。「自分の考えを発表する機会では、自分の考えが上手く伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか」との質問に肯定的に回答している児童が全国平均を15ポイント上回りました。授業の中で児童の発表に対する姿勢が育ちつつあると考えられます。「人の役に立ちたい」「いじめはどんな理由があってもいけないこと」と肯定的に回答した児童の割合が100%であることから自己肯定感の向上もみられます。算数、理科の勉強が好きだと回答している児童の割合が増えており、学びに対する意欲も感じられます。

課題（考察）

毎日朝食を食べていると回答した児童の割合が、全国平均よりやや下回りました。今後も朝ごはんの大切さを児童に啓発していく必要があると考えられます。「学校のきまりを守っている」と肯定的に回答した児童の割合が、全国平均値を5.5ポイント下回りました。規則に対する意識付けが必要だと考えられます。家庭では自分で計画を立てて勉強している割合が7.6ポイント全国平均を下回っています。宿題は100%できているので、今後は児童が主体的に学習する意欲の育成が必要であると考えられます。算数の授業ですべての児童は学習したことをノートに記入していると思われませんが、「解き方がわかるように書いている」と実感できていない児童がやや増えたのではないかと考えられます。

分析結果を踏まえて今年度中に取り組んでいくこと

(1) 授業改善について

・「まなびに向かう力」を育むため、基礎学力の定着を基本とし、「ことばの力」を高め、豊かな表現力を育成する授業づくりをめざしています。どの教科においても、「自分の考えを説明する力」「伝え合う力」「自分の考えを文章で書き表す力」をつけるための授業を計画して行っています。

・国語については以下の4つに取り組んでいます。

1. 授業の中で自分の考えを説明できるように、考えたことを相手に伝えたり、考えの根拠を述べたりする場面を多く設定する。
2. 自分の考えを文章で書き表すことができるように、授業の振り返りや、様々な場面で文章を書く取り組み、ワークシートの工夫を継続して行う。
3. 読み取る力を育てるため、教室に教科と関連する本の設置、読書カードの活用、ボランティアの方による本の読み聞かせ等、読書活動の推進を図る。
4. 言葉の力をつけるために、4, 5, 6年生では、「ことばチャレンジテスト」を実施する。

・算数については以下の3つに取り組んでいます。

1. 授業はじめの計算プリントを繰り返すことで、基礎計算力の定着を図る。
2. 問題解決型の授業を基本とし、自分たちで解き方などを見つけていく課題設定を行う。
3. 月末に長文問題の小テストを実施し、解答状況を確認して日々の授業にいかす。

(2) 学習規律について

・中学校区として3小学校が新中学1年生の新学期を同じ学習規律でスタートできるように心がけています。
・「中宮中学校区の学習規律」の定着に向けて、チャイムが鳴るまでに授業の準備をして着席するよう促し、授業のはじめや終わりのあいさつについてもしっかり行うよう指導しています。

(3) 家庭学習について

・規則正しい生活習慣や学習習慣が身につくように、ご家庭には「家庭学習の手引き」「生活習慣・学習習慣振り返りカード」の活用をお願いし、学校では「毎日の宿題の確認」、「自学ノートの好事例の紹介」、「放課後自習教室の促進」、「自学自習プリントの持ち帰りの声かけ」等を行っています。